

入学期前後の幼児健康 状態について

——保育の面よりみた子供の疾病に

関する調査研究——

川村短期大学

吉田 弘美

岩原喜美子

豊島区内の九つの小学校二年児童千三百九十三名につき調査したものを、次の如く大きく分けて三項目にまとめ上げた。

一、幼稚園への通園と入学後の児童の疾病

千三百九十三名の児童中、幼稚園を卒業したものの四十七%と、幼稚園へ行かぬ五十三%を分類し、又、兄弟関係につき総領、中間の子、末子、一人子につき類別した。これにより幼稚園通園の有無と兄弟関係につき調査をまとめた。

次には、入学後一年間にかかった病気が、幼稚園通園の有無によってどのように異なるかをみた。

二、既往疾病から見た児童の健康状態

入学前と後では、子供達がどんな病気にかかっているかを調査し、幼児期から児童期に変っていく時の健康状態を疾病の上から伺った。次にはこの病気を、「1」で分類した兄弟間の位置関係と関連づけ、入学期前後の病気は、子供の兄弟の有無といかに関係があるかを調べた。

三、乳児期の幼児期に及ぼす影響

ここでは、項目を更に二つに分け、(一)は受乳期の栄養と、離乳時期との問題、(二)は受乳期の栄養と幼児、児童期にかかった病気について調べた。

即ち、普通子供の離乳期はいつ頃なものであるか、早い時期、又特におそいものでは、何才何ヶ月迄離乳しない等を見た。又(二)の方では、病気(調査用紙に書きこまれたもの全て)を消化器系、呼吸器系、発疹性のものの三種にわけて、授乳期の栄養即ち人工栄養、混合栄養、母乳栄養で育った子供により、かかった病気にどんな相異がみられるかを調べた。

一項目々の調査結果については、紙面の数の関係上、詳細には記せないが、だいたい、左の如くにまとめられる。しかし、このまとも、単にこの調査の対称となった豊島区内での結果であって、これが、一般的に云える決定的なものではないことを書き添えて置きたい。

調査結果のまとめ

1 豊島区内の九つの小学校では、幼稚園(わずかの保育園を含む)を卒業したものと、幼稚園へ行かなかった児との比は二対一・二である。

2 幼稚園へ行ったか行かなかったかは、兄弟の位置関係との関連が大きい。

3 入学後の病気にとって、幼稚園での生活は、麻疹や呼吸器系の病気以外には、たいした違いが認められない。

4 入学の前と後では、かかる病気の種類に大きな違いがみられる。

5 幼児期の病気は、兄弟の有無が大きく影響している。

6 授乳期の栄養を分類してみると、幼児、児童期の消化器の疾病に對しては、混合栄養で育った子供が、一番、罹患率が高く他の栄養児の二倍弱となっている。殊に消化不良になったものが消化器系の病気の四分子一を占めている。

呼吸器系の疾病に對しては、人工栄養で育った児が、非常に高率を示し殆ど百パーセントに近い数字が見られる。

発疹性の病気に對しては、混合栄養児が他の栄養児に比べ、わずかに高い感染率を示している。

7 前の6を総括して云うならば、この調査では、母乳栄養児は、他の栄養児に對し、比較的病気にかかりにくいと云う結果を見る。

以上が調査結果のまとめであるが、これは、飽くまでも、統計的な調査への資料として算術平均により得た結果であつて、今後、これをもとに一層深く調査して行きたいと願つてゐる。

二、三才児の社会的行動の研究

愛育研究所

植松治子

山下先生の著書「幼児心理学」にも明記されている様に、子供が

第一反抗期に於いて、その周囲の大人と好ましい人間関係を結び得ると否とは、その後の発達に重大な影響を及ぼす。然し私達の周囲には、之等両者の関係が一般に好ましくなく、時に善意に充ちた之等大人による刺戟の与え過ぎは、問題の親や子をつくつてゐる。そこでこの様な親子の要望に答え、試案として愛育幼稚園に「母と子の教室」を附設し、二、三才児の保育と並行して、その母親に正しい育児の知識と、技術を体得させる時間を設けた。

〔研究方法〕昭和二十九年四月より翌三十年三月迄、週一回集つた子供二十名の中、十五名を対象として、登園後三十分を経過した後の十分間、子供達を自然の状態に於いて、それらの総ての行動觀察を記録した。

〔研究結果〕以下その記録の中から社会的行動に関する面だけを抜き出して、(1)「社会的行動の現れ方の型、(2)発達の経過、(3)その他について、整理したものを簡単に報告する。

先ず私達は、觀察記録に先だち、子供の社会的行動の型を次の様にA、B、Cの三群に区別した。

A群 母親と他の場所を往ったり来たりするが、最後には完全に親から離れて保母や他の子供との仲間遊びが出来る様になつた。

B群 〓もじもじして親から離れないが後には並行遊びをする。

C群 〓親やその他家族の者につききりて離れないが独り遊びや他の子供の遊びを傍で見ている時はある。

この各群の子供達がどの様な経過をとり乍ら発達していったかを夫々の群の中から、比較的明瞭な群の型を具えているケースについ